

## 「おたから」を継承する意識を持つ

変化の激しい現代の世の中で、全てのおたから（文化遺産）を守り続けることは容易なことではありません。しかし、それを自然に任せて無意識のうちに失っていくことと、意識を持って「これは私たちの地域の大切なたからなのだ」「できるだけ守り伝えていこう」「保存が難しければ、せめてきちんと記録していこう」と継承の努力をしていくこととは、大きな違いがあります。

## 現代の暮らしの中でいかす（生かす・活かす）

おたから（文化遺産）は、決して、凍結的に保存することだけが継承の手段ではありません。積極的に紹介され、活用され、あるときは新しくつくられるもののモチーフになり、現代の人々の暮らしの中でいかされていくことこそ、最大の継承の手段であると考えます。

## おたからをお互いに認め合う

本事業では、文化遺産の調査・記録作成事業、認定事業、データベースの作成、普及啓発・育成事業などを中心とした事業を行ってまいります。調査では、地元の人たちが地元を改めて歩いて、地域で大事にされてきたもの・大事にしていきたいものを再発見・再確認し、写真や位置情報、説明などを記録することで、おたからの拾い上げを行ってまいります。認定というのは、市民や地域の人々同士が「これはこの地域にとってこういう意味で大切なものなのだから、萩のおたからですね。」と互いに見せ合って認め合うステップです。

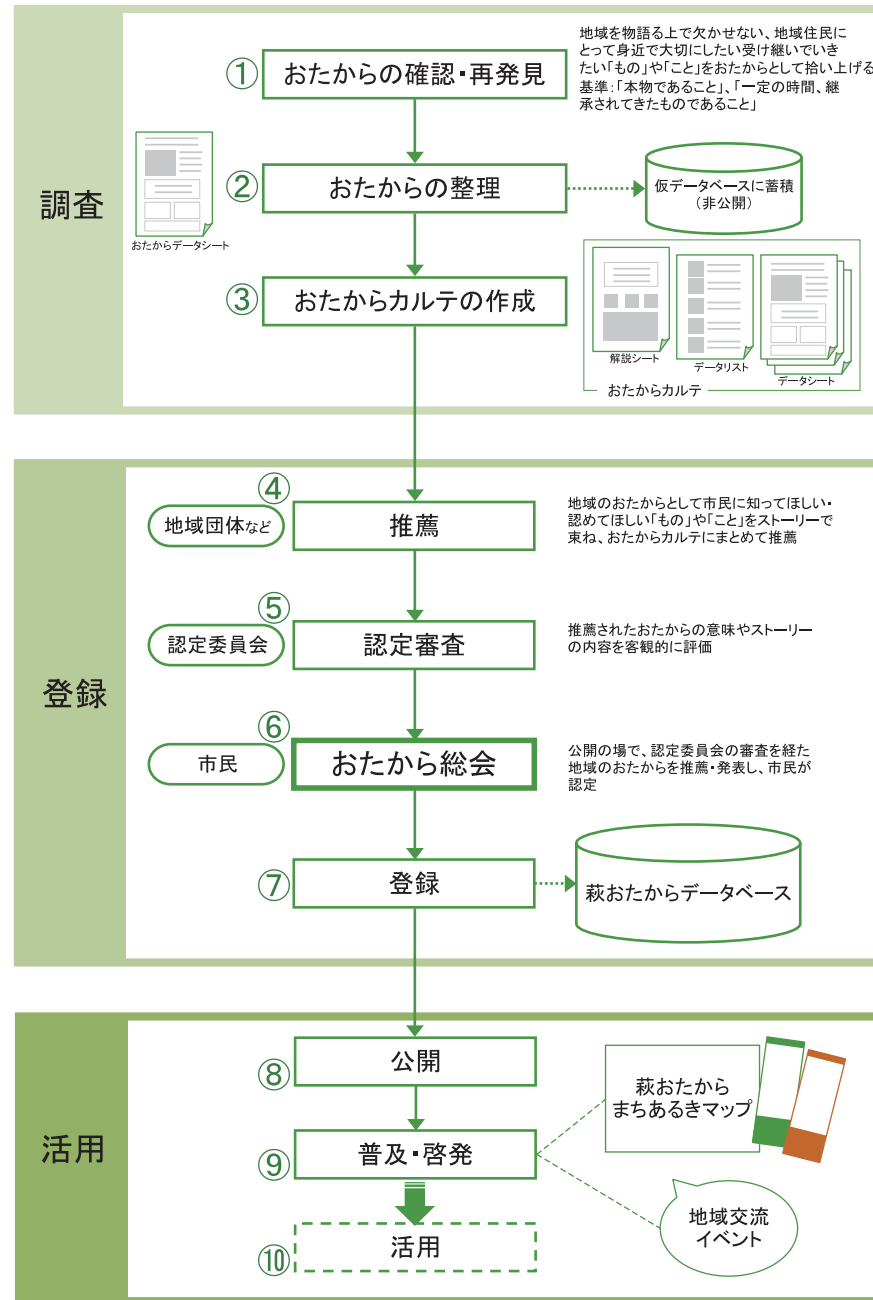
## まずは何が地域のおたからなのかを知る

本事業の最終的な目標は、地域のおたからや隠れた魅力を地域の資源・財産として、まちづくりや観光にいかしていくことです。愛着をもって大事にしながらも現代の感性で使いこなしていくためには、まずは何が地域のおたからなのか、それはどこにあるのか、そこにはどんなストーリーがあるのかを萩市民全員が知るから始まります。その基礎資料やしぐみをつくるのがこの事業です。

## おたからの登録基準

- 「本物であること」
- 「一定の時間、継承されてきたものであること」

「本物であること」とは、複製品（レプリカ）であったり、価値の根拠や履歴等がややふやではなく、真正性（オーセンティシティ）が説明できることです。「一定の時間継承されたものである」とは、個人の次元を超えて価値が共有され、大切に継承されてきたもの（おおむね2世代・50年以上がめやす）です。



# 萩のおたから

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業では、地域のおたからを再発見して、「萩のおたから」として地域から推薦し、市民が互いに認め合い、データベースで公開して活用する取り組みを行っています。これからも、萩のおたからを未来に引き継ぐため、萩市民が協力しあい、守り育て、いかす活動を進めていきます。

- 萩のおたから（文化遺産）とは…
- ・地域らしさを作り出している「もの」や「こと」
  - ・地域のことを物語る上で欠かせない「もの」や「こと」
  - ・地域のたからとして大切に守り伝えていきたいと思う「もの」や「こと」

## 平成 28 年（2016）度の活動

- |      |       |  |
|------|-------|--|
| 2016 | 4月3日  | 藍場川地区 地域交流イベント<br>「桜と雛と藍場川の彩り〜川島の春を巡る〜」  |
|      | 4月22日 | 第5回実行委員会   |
|      | 5月〜   | 各地（椿、大島、三見、大井）で<br>現地調査・資料調査<br>地域おたからマップ原稿作成<br>地域交流イベント企画・準備   |
|      | 7月24日 | 大島地区 地域交流イベント（共催）<br>「大島まるまる体験ツアー」<br>地域おたからワークショップ  |
|      | 9月6日  | 「まち博ツアーをはじめよう」<br>講師：北海道大学 西山 徳明 教授、長崎コンプラドール 田中 潤介 氏<br>まち歩き観光の先進地「長崎さるく」のしくみと成功の秘訣、楽しいまち歩きのためのガイド方法や注意点等について学んだ。 |
|      | 12月3日 | 椿地区地域交流イベント<br>「萩の玄関口・椿を巡る」  |
|      | 12〜1月 | 各地で推薦するおたからの検討・推薦資料作成  |
| 2017 | 1月22日 | 大島地区 地域交流イベント（共催）<br>「大島まるまる体験ツアー」<br>地域おたからワークショップ  |
|      | 1月26日 | 「まち博ツアーをはじめよう2」<br>講師：弘前観光コンベンション協会 坂本 崇 氏<br>まち歩きツアーの「しくみ」や「体制づくり」、「人材育成」について、より深く学び、萩ではどんなやり方ができるかを共に考えた。        |
|      | 2月2日  | 文化遺産認定委員会  |
|      | 2月9日  | 第4回 萩まちじゅう博物館おたから総会<br>各地域からおたからを推薦発表、市民が「萩のおたから」として認定   |



## ◆ 萩の玄関口・椿

椿地区は、萩の市街地の玄関口ともいえる場所です。阿武川の沖積地と大屋川の扇状地が重なり、三角州を取り囲む山々の麓に広がるゆるやかな土地には、古くから人が住み、農業が営まれてきました。奈良の大仏建立に活躍したとされる白牛の伝説があり、平安時代には河原に牛を放牧して「牛牧」と呼ばれ、鎌倉時代には氏神として椿八幡宮が勧請され、中世には「椿郷」と呼ばれていたことが伝えられています。

江戸時代には、萩から防府三田尻へとつながる萩往還が整備され、萩藩主が参勤交代で江戸へ出立する際、安全祈願に立ち寄った金谷天満宮や、萩城下への出入りを厳しく監視した天木戸、初代と偶数代藩主の菩提寺として大照院などが置かれました。山手の大屋地区から先は街道が山中へ入ることから、萩城下の見納めとなる場所でもあり、吉田松陰も街道松越しに萩城下をふりかえり「涙松」として歌に詠まれました。大正時代には、鉄道が三角州の周囲を巡る形で敷設され、萩駅舎が建設されるなど、いくつもの時代を経ながら多くの人や物が行き交ってきました。

これら萩の玄関口としての歴史・文化を伝える事柄や風景が椿地区のおたからです。

おたからの一例



葵神社とタブノキ



椿八幡宮



金谷天満宮（金谷神社）



南明寺のイトザクラ



大照院



涙松遺跡と萩往還



萩駅舎



逆サイフォン式による用水路  
(先人たちによる農業の工夫)



椿地区の田園風景

## ◆ 恵みの海と火山台地のヤマに育まれた元気な島

大島は、阿武火山群の火山のひとつで、約 19 万年前に陸上で噴火した溶岩台地です。後に海面が上昇し、テーブルのような形が特徴的な日本海に浮かぶ島となりました。平安時代にはすでに人々が住み、いつのころからか平家の落人が流れ着いたという「七名伝説」が語り継がれています。明治から昭和 30 年にかけては、萩沖の島々とともに六島村を形成し、その中心地となりました。

明治半ばから定置網漁で栄えた大島の漁港には、現在も多くの漁船が並び、漁業生産額が県内の離島ではトップクラスです。また、「ヤマ」と呼ばれる台地の上には畑が広がり、葉タバコやブロッコリーなどが栽培されています。島の南側の斜面には、門や石垣のある家々が寄り添い合うように建ち、近所同士助け合って仲良く暮らしています。

恵みの海と火山台地のヤマに育まれた元気な島・大島が、大島地区のおたからです。

おたからの一例



大島の溶岩台地



大島の七名塚



大島漁港の風景



港まつり



ガンギ



葉タバコ畑の風景



共同井戸と水神様



サルの門番  
(向こう千支の餅り)



歳祝い

2013

浜崎地区のおたから

◆ 港で栄えた商家町

旧松本村地区のおたから

◆ 松陰先生のふるさと、旧松本村

むつみ地域のたから

◆ 恵まれた自然地形と

◆ 先人から引き継がれてきた田園風景、暮らしの証

旭地域明木地区のおたから

◆ 街道による人・物の交流と思いやりの中で

◆ 生まれ栄えた明木のおたから

旭地域佐々並地区のおたから

◆ 萩往還の宿場町を中心に栄えた心のよりどころ、佐々並

2014

堀内・平安古・城下町地区のおたから

◆ 維新の志士が往来した当時の風景を今も残すまち

土原地区のおたから

◆ 松本川に育まれた人々と武家の町割り

川上地域のおたから

◆ 阿武川とともに生きた山里の歴史と営み

福栄地域のおたから

◆ 深い山々にいざなわれた信仰の里

三見地区のおたから

◆ 赤間関街道の宿駅町として発達した三見市と街道の変遷

2015

川島・藍場川地区のおたから

◆ 人々の暮らしにとけこんだ藍場川と川島の風景と歴史

笠山・越ヶ浜地区のおたから

◆ 越ヶ浜の自然と漁業集落の暮らしの文化

須佐地域のたから

◆ 幕末・明治維新と日本の近代化を支えた須佐

田万川地域のおたから

◆ 田万川のおたからを育んだ海彦・里彦・山彦

大井地区のおたから

◆ 古代の息吹が今にいきづく阿牟の里・大井

これまでに認定されたおたからの詳細を記した「おたからカルテ」は、萩のおたからデータベースでご覧いただけます。

URL: <https://sites.google.com/site/otakarakarute/>

